

Ciconia 1:29-33(1992)

## 福井県内におけるノスリの繁殖記録

松村俊幸<sup>1・2</sup>・門前孝也<sup>1・3</sup>・加藤晃樹<sup>1・4</sup>・久保上宗次郎<sup>1・5</sup>

ノスリ *Buteo buteo* は、西はトルキスタン東部、エニセイ川上流から、東は満州、ウスリー地方、南千島、樺太、海馬島、朝鮮、濟州島、北はトランスバイカリア、ケンティ山脈、カンガイ山脈、バイカル湖、南はヒマラヤ山脈まで繁殖する（清棲 1978）。日本では四国以北の低山帯の森林で繁殖し、冬期は全国の森林、農耕地、埋立地に生息するワシタカ類である（高野 1981）。福井県においても、漂鳥であり、秋冬期には低山帯の森林、農耕地、河原、埋立地において、トビ *Milvus migrans* について観察する機会の多いワシタカ類である。

ノスリは比較的生息数の多いワシタカ類であるにも関わらず、繁殖期の記録は、清棲（1933, 1978）、山野井（1986）、宮崎（1987）、マンサク会（1988）などしかない。北陸地方においても、富山県立山美女平における夏期の若鳥の確認（富山県 1980）、石川県鳥類リストでは繁殖していると思われるが確実な記録がないものにランクされているだけで（日本野鳥の会石川支部 1990）、確実な繁殖例は報告されていない。また、福井県でも、鯖江市三里山で1960年6月20日と1973～75年の調査において夏期の生息が確認されているだけで営巣の記録はない（福井県自然環境保全調査研究会 1976、福井県生活環境部自然保護課 1982）。今回、大野郡和泉村において営巣しているペアを観察したので、断片的ではあるが繁殖状況および巣の計測結果について報告する。また、三里山での記録以後の繁殖期の観察記録について集めて整理してみた。

本報告をまとめるにあたり、福井県希少猛禽類調査委員会の池田善英氏に観察記録の提供とご指導をいただき、福井県自然保護センターの大迫義人氏には、本稿を読んでご意見をいたいたいた。厚くお礼申し上げたい。なお本調査は、福井県が実施している「希少猛禽類の保護・管理に関する調査事業」の一環として行なった。

### 1. 今回の記録

#### 1) 経緯

ノスリの営巣は、1991年4月7日九頭竜ダム湖畔において、イヌワシ *Aquila chrysaetos* を中心とした希少猛禽類調査中に観察された。その日、ノスリに関して十分な追跡調査は

1. 福井県希少猛禽類調査委員会。[事務局: 〒921 石川県金沢市西泉4-135-2 池田善英]
2. 福井県自然保護センター。〒912-01 福井県大野市南六呂師169-11-2
3. 〒919-02 福井県南条郡南条町鯖波18-3
4. 〒458 愛知県名古屋市名東区高針1-311
5. 〒919-13 福井県三方郡三方町南前川39-23

実施できず、4月8日に補足の観察を行なった。そのため、営巣行動に関しては断片的な観察記録のみとなった（表1）。両日とも、メスと思われる個体が巣内において座っており、抱卵期と考えられた。その後、4月12日の13:55～14:10に、同所で抱卵中と思われる個体が観察された。

表1. ノスリの営巣行動。

Table 1. Breeding behaviour of Common Buzzards.

年月日	時 間	主な行動
1991年 4月7日	10:50	定点の山側の斜面において、巣内に座っている個体が観察された。
	13:41	別個体が北方向から出現し巣内に入った。
1991年 4月8日	9:38	巣内に座る1個体(A個体)が観察された。
	12:03	別個体が(B個体)巣の斜面尾根上部に止まった。
	12:07	B個体消失した。
	14:37	B個体が観察者の東上部の木に止まり、トビに似た声で鳴いた(警戒音?)。
	14:40	飛び立ち消失した。

育雛期である6月17日には、巣内に雛は発見されなかった。巣内には新しいアカネズミの仲間 *Apodemus sp.* の頭部が残されており、数日前に巣立ちてしまったか、巣立ち雛が巣に戻って給餌を受けていたものと予想された。

また2羽のノスリが林の上空を飛翔しているのを観察し、トビと似ているがより高音でテンポの速い鳴き声が聞かれた。警戒音と考えられ、近くに巣立ち雛がいると思われた。

## 2) 営巣環境、営巣樹および巣材

営巣の確認された林は、ブナクラス域代償植生のクリーミズナラ群落であった（香室1984）。高木層に樹高10～15mのトチノキ *Aesculus turbinata*, クマシデ *Carpinus japonica*, ウリハダカエデ *Acer rufinerve*, ホオノキ *Magnolia obovata*, ミズナラ *Quercus mongolica* var. *grosseserrata*, フサザクラ *Euptelea polyandra*, アズキナシ *Sorbus alnifolia*, 低木層にダンコウバイ *Lindera obtusiloba*, ヤマモミジ *Acer palmatum* var. *matsumurae*, リヨウブ *Clethra barbinervis*, コバノガマズミ *Viburnum erosum*, ムシカリ *Viburnum furcatum* などが見られた。また周辺には同じような落葉広葉樹林が広がり、一部スギ *Cryptomeria japonica* の植林地となっていた。

営巣木の存在した地点は標高660mで、ダムの水面から尾根までのほぼ中間の北向きの斜面に造られていた。営巣木は、樹高約10m、胸高直径48.4cm、谷側に30°傾いて生えていたミズナラで、フジ *Wisteria floribunda*, イワガラミ *Schizophragma hydrangeoides* がまとわりつき、樹冠の60～70%が覆わっていた。幹にはツキノワグマ *Selenarctos thibetanus* のものと思われる新しい爪跡がつけられており、営巣中もしくは巣立ち後に登ったものと考えられた。

巣の外径は93×69cm、高さは30cmで、地上4.6m、直径25.5cmの幹から、枝が3本（直径7cm・15cm・17cm）出ているところに造られていた（写真1）。産座は、下部にスギ、上

部にミズナラ、ウリハダカエデ、イタヤカエデ *Acer mono*, クマシデなどの枝が使われていた。落葉広葉樹が展葉するまでの間はスギを利用し、展葉後は落葉広葉樹を利用したものと思われた。

巣は、清棲（1978）によれば、雑木林やアカマツ林のカラマツ *Larix leptolepis*, モミ *Abies firma*, アカマツ *Pinus densiflora*, ミズナラ, クリなどの地上 7~12m の幹および幹近くの又になった部分にかけるとある。今回は、巣の高さが 4.6m と低い以外は同様であった。また巣の外径は、清棲（1978）によれば 60~90cm, 高さは 44~60cm ぐらいとあるが、今回の場合は高さが 30cm と薄かった。産座の巣材は、清棲（1978）によれば青松葉を利用するとあるが、今回は下部にスギ、上部にミズナラ、ウリハダカエデ、イタヤカエデ、クマシデを利用しており該当しなかった。これは近距離にアカマツがないことが、原因の一つに上げられるだろう。

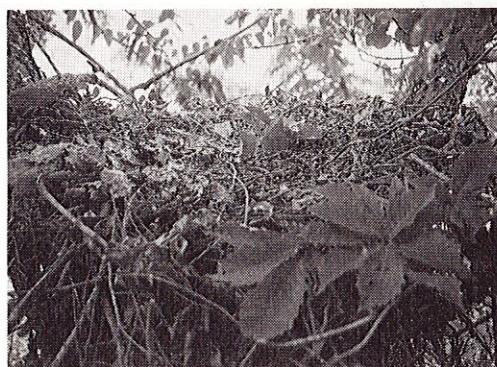
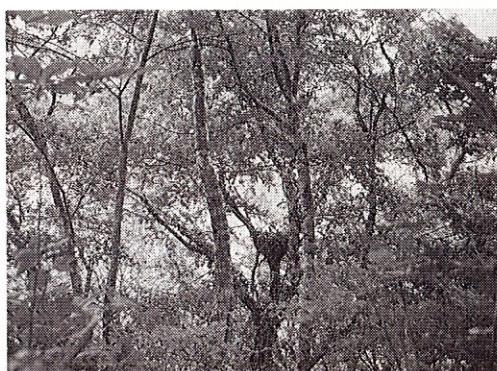


写真1. ノスリの繁殖の確認された森林とその巣。  
Photo 1. The habitat and breeding nest of Common Buzzards.

福井県内のノスリの営巣地の特定は、今回の観察が初記録となったが、表2のとおり以前から県内全域において繁殖していたものと考えられる。しかし、1976年より県内の山地帯においてワシタカ類の調査を実施してきたが、繁殖期におけるノスリの生息記録は多くなかった。むしろ県内では、秋冬に漂鳥として見られることが多いタカである（福井県自然保護課 1982）。これは石川県においても同様の傾向があるようで、繁殖期の観察記録は少なく確実な繁殖記録はない（日本野鳥の会石川支部 1990）。

## 2.過去の記録

ノスリは、4月6日または5月9日に抱卵した場合、6月8日または7月10日に巣立ちを迎える（清棲 1933, 1978）。今回、4月7日に抱卵が確認されていたことから、4月1日から7月15日までが福井県内における繁殖期と考えられる。表2にこれまで観察されたノスリの繁殖期の記録をまとめた。

林内を飛翔することが多いため必然的に目撃記録が少なくなるオオタカ *Accipiter gentilis*, ツミ *A. gularis*, ハイタカ *A. nisus*などを除けば、ノスリは、観察記録の少ない森林性ワシタカ類の一種である。

1978年7月23日に確認された幼鳥は、営巣地は特定されていないものの、状況から考えて繁殖していたことは間違いないさうである。福井県内で確認された繁殖記録としては、最も古いものであろう。その他、単独個体の観察記録が2件、2羽の観察記録が2件と、少ないながら繁殖時期の記録が存在した。

表2. 福井県における繁殖期のノスリの観察記録.

Table 2. Records of Common Buzzards in the breeding season in Fukui.

年月日	観察場所	状況
1978年 7月28日	美浜町新庄区田代	作業中切り倒した樹上から、巣と共にヒナが落ちてき たので、その内の1羽を伐採作業員が飼育していた。 後日、ノスリと確認された。
1979年 6月12日	三方郡三方町倉見 通称 大石谷	1羽飛翔していた。
1980年 5月23日	遠敷郡上中町新道 北川支流の山林	1羽飛翔していた。
1980年 6月20日	三方郡三方町藤井 通称 向陽寺	開けた谷間のアカマツと落葉広葉樹の混合林内から、 2羽が出現した。それぞれ帆翔して林内に消失した。
1985年 4月 2日	勝山市鷺ヶ岳 坂東島	稜線下部において、1羽(小型)が停空飛翔と滑空して いた。約1分後、もう1羽(大型)が出現した。約1分 後、2羽共東側の尾根を越え消失した。

以上、ノスリは比較的生息数の多いワシタカ類であるが、福井県内における本種の繁殖地は決して多いとはいはず、県内の自然環境の多様性を計る上で、今後の繁殖状況の把握が必要である。つまり、豊富なワシタカ相が維持されている環境は、そこに種類数や個体数において、豊富な生物相が維持されることにつながるからである。よって、今後もこのような自然環境が維持され、食物網の頂点に立つノスリなどワシタカ類が生息できるよう保護・管理に努めていかねばならないであろう。

### 要 約

1991年4月7日、福井県大野郡和泉村九頭竜ダム湖畔において、福井県で初めてノスリの営巣地を確認した。6月17日には巣内に雛は確認されず、巣立ったものと考えられた。巣は、クリーミズナラ群落内の樹高約10m、胸高直径48.4cmのミズナラの地上4.6mの高さに造られていた。巣の外径は93×69cm、高さは30cmで、産座は下部にスギ、上部にミズナラ、ウリハダカエデ、イタヤカエデ、クマシデが使われていた。福井県における繁殖期のノスリの観察記録は、1960年6月20日鯖江市三里山の記録が最も古かった。それ以後、5例の記録があり、単独個体(2例)、ペア(2例)の観察記録と、幼鳥の捕獲記録(1例)であった。このように、ノスリは福井県において希少なワシタカ類であり、その生息地の保護・管理が必要である。

### 引用文献

- 福井県自然環境保全調査研究会(編). 1976. 福井県自然環境保全基礎調査報告書. 福井県.  
298pp.
- 福井県生活環境部自然保護課. 1982. 福井県の鳥獣. 福井県. 240pp.
- 香室昭円. 1984. 福井県現存植生図. 環境庁.
- 清瀬幸保. 1933. ノスリ *Buteo buteo burmanicus* Hume 及びハイタカ *Accipiter nisus*

- nisosimilis (Tickell) の繁殖状況. 鳥 8 : 118-125.
- . 1978. 増補改訂版日本産鳥類大図鑑 II. 講談社, 東京. 783-786pp.
- マンサク会. 1988. 鳥海山の野鳥. 秋田魁新報社, 秋田. 152pp.
- 宮崎学. 1987. 鷲鷹ひとり旅. 平凡社, 東京. 138pp.
- 日本野鳥の会石川支部. 1990. 石川の自然 野鳥. 橋本確文堂, 金沢. 184pp.
- 高野伸二 (監). 1981. 日本産鳥類図鑑. 東海大学出版会, 東京. 474pp.
- 富山県自然保護課. 1980. 富山県の鳥獣. 富山県. 242pp.
- 山野井昭雄. 1986. イヌワシが放棄した岸壁でノスリが営巣. *Aquila chrysaetos* 4 : 23-24.

#### Breeding records of Common Buzzards in Fukui

Toshiyuki Matsumura<sup>1,2</sup> • Takaya Monzen<sup>1,3</sup> • Koki Kato<sup>1,4</sup> and Sojiro Kubokami<sup>1,5</sup>

The first breeding of Common Buzzards in Fukui was recorded near Kuzuryu Dam in Izumi Village on 7 April, 1991. No chicks were observed on 17 June, which maybe left their nest. The nest was at a height of 4.6m on a *Quercus mongolica* var. *grosseserrata*, of which the height was 10m and the diameter at breast height was 48.4cm. The size of the nest was 93×69cm wide and 30cm high. The nest was built of twigs of *Cryptomeria japonica* in the lower part, and of *Quercus mongolica* var. *grosseserrata*, *Acer rufinerve*, *Acer mono* and *Carpinus japonica* in the upper part. The oldest record of Common Buzzards in the breeding season in Fukui was at Sanri Hill in Sabae City, on 20 June, 1960. Thereafter, two solitary birds and two pairs were observed, and one juvenile was captured. The habitat of Common Buzzards that are rare in Fukui shuld be conserved.

1. Fukui Rare Raptor Research Committee, % Yoshihide Ikeda, Nishi-izumi 4-135-2, Kanazawa-shi, Ishikawa 921
2. Fukui Nature Conservation Center, Minamirokuroshi 169-11-2, Ono-shi, Fukui 912-01
3. Sabanami 18-3, Nanjo-cho, Nanjo-gun, Fukui 919-02
4. Takahari 1-311, Meito-ku, Nagoya-shi, Aichi 458
5. Minamimaekawa 39-23, Mikata-cho, Mikata-gun, Fukui 919-13

